

地球惑星科学関連学会 連絡会ニュース

No. 22

(2001年8月)

2001年合同大会を終えて

本大会は21世紀初、新体制運営機構主催初の開催となりました。運営機構各局からの具体的な反省点などにつきましては、次回の連絡会ニュースにて掲載致しますが、先に概要のみご報告申し上げます。(運営機構事務局)

1. 概要

会期:2001年6月4日(月)-8日(金)

(6月3日(日)青少年セミナー)

会場:国立オリンピック記念青少年総合センター

共催:協賛学会数18学会

参加者数2406名

事前参加登録者数1824名(一般1172名、学生652名)

当日参加登録者数474名(一般379名、学生90名)

見学学部生108名

論文投稿数1829件(速報セッション、統合セッション含)

セッション数88件(統合:1、レギュラー:45、スペシャル:42)

会場数27

アルバイト延べ200名

団体展示12団体(13ブース)

東京大学海洋研究所、国際電子工業株式会社、株式会社近計システム、東北大学地学専攻、東京大学地球惑星科学専攻、北海道地図株式会社、地質調査総合センター、白山工業株式会社、核燃料サイクル開発機構、海洋科学技術センター、日本分光株式会社、(株)地球科学総合研究所

書籍・出版団展示 12団体

共立出版、(株)渡辺教具製作所、(株)愛智出版、日本地質学会、ニユートリノ、火山学会、島津インターナショナル、海洋出版、Cambridge Univ. Press、Meteoritics & Planetary Science、東大出版会、古今書院

会合 57会合

青少年セミナー「未来の地球、未来の科学」(6/3(日))

参加者102名

「惑星にはどのような風が吹いているのか?」- 惑星の気象学 -

東大・理 松田佳久助教授

「地球と我々は、どうなるのか?」- 地球と人間圏の未来 -

東大・新 松井孝典教授

「深海底を掘る」- 未知の世界への挑戦 -

東大海洋研 平朝彦教授

取材プレス来場数 22社

赤旗、読売新聞、読売新聞大阪、テレビ朝日、日本経済新聞、講談社、毎日新聞、NHK、東海大学新聞、財)地震予知総合研究振興会、共同通信、富山テレビ、TBS、時事通信、静岡新聞、タイム・インク、宮崎放送、NTV 映像センター、フジテレビ、TBS ライブ、チューリップテレビ、LOVELINK (順不同)

2. 会計報告

< 収入 >

合同大会連絡会より移算	¥5,000,000
学術情報センター資料提出(2000年度分)	¥1,403,084
投稿料	¥4,503,500
参加料	
(事前)1824件(一般:1172, 学生:652)	¥14,859,000
(当日)474件(一般:384, 学生:90)	¥5,688,000
オリンピックセンター宿泊代(含事務手数料)	¥4,438,750
CD-ROM 販売(12000×24+6000×4)	¥312,000
団体展示	¥2,538,780
出版展示	¥370,000
諸学会会場費(含会合食事代)	¥297,000
保育室利用料	¥58,750
諸収入(過入金、口座立上金)	¥99,501
利息	¥1,865

< 収入計 > **¥39,570,230**

< 支出 >

大会当日費用	¥12,309,968
オリンピックセンター会場使用料	¥3,169,000
ポスター・団体展示会場設営費	¥1,002,750
団体展示会場電気設備工事費	¥336,000
当日機材費用	¥727,650
宿泊施設使用料	¥3,598,600
朝食食券代	¥351,330
アルバイト代謝金	¥2,600,000
各学会会合食事代	¥90,000
講師謝金	¥60,000
保育室援助	¥134,638
展示ブース解約返金	¥240,000

JCOM 関連 **¥6,723,310**

受付(人件費、用具) ¥350,000

登録処理経費	¥1,791,000
運営管理費	¥1,840,000
ホームページ製作費用 (プログラム開発、WEB 開発、システム運用管理)	¥3,200,000
国立情報学研究所データ処理費用	¥100,000
消費税	¥550,333
値引き	¥-1,108,023

事前参加登録
開始: 2002年1月10日
締切: 2002年3月15日午後5時
青少年総合センターへの宿泊予約
開始: 2002年1月10日
締切: 2002年3月15日午後5時

印刷費・郵送費	¥5,393,690
プログラム印刷費(650×2500)	¥1,625,000
CD-ROM 製作費(650×2500 + 改訂 650×2300)	¥2,775,000
封筒印刷費 [請求書, プログラム発送用等]	¥192,000
郵便振込用紙(28×1800)	¥50,400
ネームカード(65×2560)	¥172,250
運営マニュアル(200×10)	¥2,000
ポスター印刷費	¥126,000
請求書・プログラム・CD-ROM 郵送費	¥451,040

運営機構経費	¥6,381,446
事務局員給与	¥2,738,650
事務局員交通費	¥296,510
事務局員国民保険その他	¥216,500
他局交通費	¥18,860
通信費(振込手数料、電話代、郵便代)	¥123,813
事務消耗品費	¥395,263
備品代(事務処理用 PC、コピー機、FAX、その他)	¥2,374,735
その他雑費	¥217,115

繰越金額	¥8,761,816
< 支出計 >	¥39,570,230

2. プログラム局から

2002 年大会プログラム委員長 岩森 光
2002 年合同大会のプログラム委員長を仰せつかった岩森(東大地惑)です。2001 年大会からの流れを継承しつつ、増えつつある参加学会・多様化するセッションに対応しながら、より良いプログラムおよび大会の実現を図りたいと思います。皆様の活発なご提案、ご議論をよろしくお願い申し上げます。なお、セッションの募集、プログラム編成の進行状況等につきましては、運営機構ホームページ(<http://www-jm.eps.s.u-tokyo.ac.jp/>)およびそこからリンクされる予定の 2002 年大会用サイトにおきまして随時お伝えいたします。それらもあわせてご覧頂きますようお願いいたします。

[1] プログラム委員会の構成と役割について

- (1) プログラム委員会は、各学会選出の委員とプログラム局員(運営機構)で構成される。
- (2) プログラム委員会は、提案されるセッションの採択を行う。
- (3) プログラム委員会は、プログラムの編成を行うが、最終的な全体調整はプログラム局幹事会が中立的な立場から責任を持って行う。

プログラム局員は学会選出のプログラム委員を兼務可能ですが、全体調整に関わるプログラム局幹事会メンバーは中立的立場を保つために兼務できないことと致します。各学会選出委員のリストは <http://www-jm.eps.s.u-tokyo.ac.jp/renrakukai/2002pcom.html> を、プログラム局員のリストは <http://www-jm.eps.s.u-tokyo.ac.jp/> をご参照下さい。

また、プログラム局幹事会は、その年度と前年度・次年度のプログラム委員長に、分野バランスを考えて数名の委員を加え、今年度は、阿部豊(東大・理、2001 年プログラム委員長)、岩森光(東大・理、2002 年担当)、小野高幸(東北大・理)、原辰彦(建築研、2003 年担当予定)およびあと 1 名(未定)で構成する予定です。

検討事項については、おおむね、プログラム局(あるいはその幹事会)で案を立て、プログラム委員会全体で検討するというやり方を考えています。

プログラム委員会の基本的な役割は昨年度と変わりありませんが、今年度は[2]に述べられるように、セッション提案および採択の部分で若干の変更を検討しており、変更されればこれに伴い手順も変わります(例えば、セッションのこま数配分・日程配置は、これまではず希望こま数に基づいてなされていましたが、2002 年では、投稿締

2002 年合同大会のお知らせ

1. 概要

会期: 2002年5月27日(月)-31日(金)

(5月26日(日)青少年セミナー)

会場: 国立オリンピック記念青少年総合センター

費用: 投稿料、参加費、宿泊費

基本的に2001年大会と同じ。見学学部生無料。

当日1日登録の設定等を検討中です。

各種登録開始・締切日(予定)

講演投稿

開始: 2002年1月10日

締切: 2002年2月28日午後5時

め切り後に投稿数を考慮しながら行う)。また、セッション提案(募集)当初より、各提案セッションについてコンピナーを明確にし、個々のセッション編集はコンピナーが責任をもって当たる、という体制にしたいと考えています(昨年度は、セッション提案者とコンピナーが一致しないものもあり、編成時に支障をきたすことがあったため)。

[2] 2002 年大会のセッション募集、編集について

2001 年大会では、学会枠を超えた横断的セッションおよび各学会固有の活動を反映するセッションの両者を積極的に支援するために、3つのセッション形態(レギュラー(R)、スペシャル(S)、ユニオン(U))を設けてプログラムを編成致しました。Rセッションの継続的性質を考慮して、2002 年大会もこの形態を継承して行きたいと思っておりますが、2001 年大会を踏まえて、以下のように内容や募集・編集方式の変更を検討しています。

Rセッション:

2001 年大会では、各学会特有の研究分野発表の場として、5 年間程度はセッション名を固定する定番セッションを各学会よりご提案頂きました。2002 年より新規参加の学会には、レギュラーセッション希望(およびこれまで他の大会での実績)を尋ねる、あるいは少し合同大会への参加実績を重ねて頂きその上で図るなどして対応したいと思っております。一方、学会枠を超える内容のセッションについては、レギュラー化の希望の有無を 2001 年に調査しました。2002 年では、この希望調査および過去 2 - 3 年の合同大会での実績に基づき、適するものをレギュラーセッション化(定番化)したいと考えています。この場合、複数回の大会にわたり継続性を持たせた方が、セッション企画者・発表者・聴衆にとってメリットのあるものは、レギュラーセッションが都合が良い、という考え方にに基づきます。1 口頭発表あたり質疑応答を含めて平均 15 分程度を想定しています。

Sセッション:

その時々に応じてタイムリーな問題を、学会枠にとらわれずに議論する場として、一般から公募します。2002 年大会でも 2001 年と同様に行いたいと思っております。1 口頭発表あたり質疑応答を含めて平均 15 分程度を想定しています。

Uセッション:

2001 年大会では、全学会に共通する話題として、運営機構提案の「21 世紀の地球惑星科学」が唯一の Uセッションとして行われました。2001 年大会では、同セッション以外にも、多くの学会に共通の要素をテーマとした魅力あるセッションが多数開かれていました。2002 年大会では、運営機構提案の Uセッションに加え、これらも Uセッションとして、例えば 1 日 1 セッション程度、全て招待講演(他分野から講演者を招待することを想定して、参加料は無料?)、長い発表時間(1 講演あたり 30 - 60 分)を設けて支援してはどうか、という意見が出され

ています。

以上のセッション区分、構成の基本方針あるいは詳細に関しては、プログラム委員会で議論・決定されていく予定です。その結果については、プログラム委員および冒頭でのべたホームページなどを通して皆様にお知らせいたします。また、以下に主なプログラム編成日程(確定)と簡単な内容(案)を記します。来年の大会に向けて、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

- 8 月 Rセッションの採択基準を定めて、採択を行う(S公募開始前、9月上旬にはRを決定)。
Uセッションの採択基準を定めて、速やかに公募(電子メールにて)を始める。
また、仮にUとしての採択にもれた場合には、Sに提案し直せるように締め切りの日程を配慮する必要がある(10月20日頃締め切り?)。
- 9月 Rセッションの決定・一覧表をWEB上で公開
- 10月1日 Sセッション公募をWEB上で開始
- 10月20日頃? Uセッション公募締め切り
- 10月31日 Sセッション公募締め切り
この時点では大きく不都合がない限り基本的に提案されたものを受け入れる。
類似のセッションがある場合には違いが明確となるように、セッション内容の説明を改めて行ってもら、あるいはコンピナー同志でセッション合体などを話しあってもらうことはあると予想しています。
- 11月上旬 提案されたセッションの採択と全体的なバランスの検討
この時点では、具体的なこま数配分・日程配置はせず、投稿が終わった時点で(2月末締め切り)投稿数を考慮しながら行う。
- 11月15日 U、Sセッション決定
- 1月上旬 投稿募集開始
- 2月28日 投稿締め切り
- 3月前半 プログラム編成
- 3月18日 投稿者への通知
- 3月後半 プログラム最終調整
- 3月31日 全調整終了
- 5月27日 - 31日 合同大会

地球惑星科学関連学会連絡会ニュース 第 22 号
2001 年 8 月 10 日発行

発行： 地球惑星科学関連学会連絡会
連絡会幹事会会長 浦辺徹郎
編集： 地球惑星科学関連学会連絡会
連絡会幹事会ニュースレター担当 青木元